
anamonologue concerto.

桴夢尔祠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

a n a m o n o l o g u e c o n c e r t o .

【Nコード】

N 5 8 5 1 H

【作者名】

桴夢尔祠

【あらすじ】

あれから、卒業してから、私の枯れているよふな景色、ええ、まるでモノクロームみたいだわ。

一、新生活に夜明けは付きものだ / My Life at meaning

新生活に夜明けは付きものだ / My Life at meaning
ng of soon night . あれから、卒業してから、
私の枯れているよふな景色、ええ、まるでモノクロームみたいだわ。
「ただ貴方にはそれ」が何を一体、どのように示しているか、皆
目見当はつかないわ。

きつとよ。念のために言っておくけど、何を感じても、どれほど自由
に思考をしたとしても、私のそれは、平淡な或る日、そんな時に
ふと一人でに、出掛けたくなった時に見る、あの、単色の味気無さが
ほとんど倦めつくしていて、それから薄い、誰も観ないよふな映画
みたいだな、ううん、レトロでありモダンでもある。そんなの。
たったそれだけに、たったそれだけの。

貴方もそういふ不自然性の中に自然があつた、そんなの。さっき
の言いたかった或る事。

だけど、貴方には理解してほしくないな。いえ、他の誰にも。

目がかすむ、晴れている、何事なく毎日がトワビラ力な一枚一枚、
切り絵にしたみたいなの、そう、それでそれを、一つ一つ丁寧に重ね
てあげて、ぱらぱら、空回してみるの。

記憶がぼやけてしまふ。誰にも興味を惹かれない。そんなのわか
ってる、多分。

でも、最近を思ふと、そう考えてしまふし。

同じ日々の繰り返しを……と、世間体の怠けた誰しもが謂ったり
するけど、だけど、貴方は違う。

違うわよ、明らかに。

……ええ、違うわよ。

だから一応礼儀かわりに言ってしまうけど、貴方は同じよふな人種
にはなりたくないことすら離己的でなく、それすらなく、全くの無
情のまま、ほら吹きつく事無くだったもの。そんな昔の話しじゃな

いの。勘違いしないでね。とにかくつまりないしは、少なくとも私は私をそれに近い思いはあるけれど、別に大丈夫だしね。そふゆふことよ。だけど、だけど、立秋近づく季節なのに、なにかしら、この嫌気がさすほどの蒸し暑さ。

そふねえ、今、途端に思いついちゃって、一気に目と頭だけ覚めただけど暑苦しいわ。

どうでもいい、今年の流用言葉事番付にて、一位も夢じゃないくらい。

此処まで言ってるんだから、男として上手い事、女を廻し使いなさいよ。

性的意味は無いんだけど、そふじゃなくてね、ちょっと話しの根底からずれるんだけど、女性の私からこんなしょうみもない小咄なんを物申せらるるなんて、どこかの初講演だけ人気の教授が学外で講演していて拳句は、悲劇作家好きの上に、専攻学問以外にては、突如本文刊行していてびっくりの独身経同職場婚有りの現在蟲ざわめく地下室引きこもり中肉中年五十過ぎ定職不明の男。それ以下よ、貴方なんて。また一段熱苦しい熱帯地区自然を浴びているように。あ、そふそふ、快速急行に窓がついていたら、今すぐ開くに徹するの、と思い募りきってるから。

周りを十分むしむしと暑いのを承知で、気づかれないように伺ってから、存分に上手い具合時に開けてしまふの。

私の嫌なを全然悉く、全てから逃れたいがためだけに。弱気な女性って嫌かしら。唯でさえ人氣がない都駅の構内。なのに、この暑さったら他ないわ。たまに偶然、人がひとり、ふたり、と視線に入っても、次の瞬間には、いなくなってしまうているし——、一体私はどふしたのかしら、本当にね。

さっきの話しよ。毎日を一枚一枚、色紙のよふに、色景色にしてみふってお話し。

でも私の場合は、モノシックな——そうね、古ぼけた映画って言うてたかしら。化粧はしているのに、なぜかしら、この際、薄化粧

にしよふかな。お洒落よね。私だって女の子。暇だけど——自分の生きがい、見つけていますから。

誰も知らないこと——。見たこともないこと——。

きつと、貴方が耳にしてしまふと、二階の階段から勢いあまつて落つこちてしまつぐらいになりそうな、それは、そうね、——素晴らしいことよ。きつと。でも、教えたくない私の気持ち。わかってくれないもの。——ええ。それは、わかうと理解はしてくれるんだらうけれど、だけど、そんなことをしてしまったら、途端、もう何も貴方に求めたく無くなる——。こんな季節だから。

そうして、君の日常と言う風景色を集めた一枚々枚の風景色たちは、既に、すぐに色褪せ色枯れてしまふのです。

君は何も知らない——、だって、美しいから。

そう、君はそれをモノクロームと言いました。

僕は、僕自身には、そのような物をアナログだとしたしげに、日々、妄想し思っていた頃が昔、偶然にも在ったのです。

こちらの場合は、ひっそりとほの暗い森の中を歩いていたら、この目に映った或る納屋まで、必死に（汚く流れる程）歩いてみてや、何も食べることなく、何も感ぜず、生きる気力をも失ったままその中へ入り込み、そして何事も無かったかのようにランプを焚き、生き物たちの気配を促し、辺りを見渡して、土足のまま、この、密閉されしきつた空間の最中ではあるんだけど、私をあるがままに受け入れてくれた箱舟なんだろうかと——と、そのような感受性に纏われ、軽く頷き、持っていた缶に封を切り、孤独、思うことなく、唯、静かに、それを口に、貪り喰らうのです。別段、自身の体験談という訳では、到って無いことは確かなのですが（だけど、このように近しい経験は有りましたが）、今は丁度、散歩から帰ってきて、一人涼しげにサイダーを飲み込んで、酸で、むせそうになりながらも、訳あてなく、これ何と口言すればいいのか皆目、見当付きません。つまり、まあこのような歳ですけど、若いなりの反抗的空想と言えます。続けて私話し言葉洗っていいのなら、上手に君に語ら

えるよう、努力しますね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5851h/>

anamonologue concerto.

2010年10月28日07時29分発行